

## セミナー報告

令和4年度 男女共同参画セミナー①

# 『ママドラフト会議からみえてきた 女性活躍が拓く『わたしの未来』』



令和4年6月25日(土) 10時～12時

講師 田中 彩さん (WorkStep 株式会社代表取締役/NPO 法人ママワーク研究所理事長)

**【プロフィール】**ベンチャー企業で総務部長をしていたが、出産を機にリタイア。子育てしながら資格試験に取組み、社会保険労務士となる。自身が産後の社会復帰挫折を経験したことから、両立支援に高い関心を寄せ、福岡を拠点にテレワーク（在宅勤務）導入支援に取組む。同時に NPO 法人ママワーク研究所を立ち上げ、企業とママが出会う「ママ・ドラフト会議®」「ママ・ボランチ育成講座」などを展開してきたが、再就職マッチングまで責任を持つ存在でありたいと職業紹介免許の取得に発起。WorkStep株式会社を立上げる。

### 《セミナー概要》

自身の産後社会復帰挫折体験から、子育てと仕事の両立支援に高い関心を寄せられ、NPO法人ママワーク研究所を設立。もう一度働きたいママと企業が出会うスピーチコンテスト「ママドラフト会議」を通してみえてきた女性活躍の必要性や、課題についてお話をいただきました。

人口減少が進む中、働き手不足の解消には、介護・看護・育児・育児のため働きたくても働くことができず、その中でも具体的に仕事を探していない「潜在就労女性」の再就職が必要です。

しかし、夫婦の家事・育児分担の現状や、育児休業の取得の状況をみると、女性に負担が偏りがちになっています。また、家庭と仕事の両立には、少日数・短時間勤務制度のような多様な働き方と子どもの成長に合わせてキャリアアップ・収入アップし、継続的にやりがいを持ち勤務できる企業側の配慮も非常に大切になってくるのです。

子育て期には、リーダー職のマネジメントスキル（育成力・忍耐力・観察力・コミュニケーション力・危機管理力・段取り力・タイムマネジメント力）の習得ができ、生活者時間がもたらすスキルが再就職する上で価値となります。

そのことから「自分の強みを生かし、積極的に仕事と生活の調和＝ワーク・ライフ・バランス（WLB）に配慮ある働き方・生き方をし、男女ともに人それぞれ役割を担う社会、力を発揮できる社会にしましょう」「多様な人材が活躍することは、仕事・生活・地域に良い影響をもたらすワークライフシナジー（相乗効果）となり、『わたしたちの未来』につながっていきます。」と熱意を込めて語られました。

女性が活躍する社会を実現するにはWLBを充実させることが重要です。自分らしい働き方・生き方が選択できる社会にしていきましょう。

※別紙資料

<受講生の感想> ※一部抜粋

- ・不安に思っていたことが解決に動いていきそうな内容がたくさんあり希望が持てました。
- ・今までやってきた仕事や育児などの多くの経験には無駄なものなど一つもないことを改めて知ることができました。これからも、色々なものにチャレンジしていきたいと思います。
- ・社会の矛盾に気づき、周りに働きかけて社会をよくしていきたいです。
- ・若い頃、髪をふり乱してフルタイムで働いていたこと、子どもが病気の時に仕事を簡単に休めず悩んだことを思い出し、30数年前の私に今日の話を聞かせたかったです。
- ・時代の流れと共に、世の中の多様性が本当に大切だなと思いました。
- ・自分ができることから始めれば、段々と範囲が広がっていくことがわかりました。
- ・自分の強みを生かして、これからもできることがあればと思っていたので、やれることをみて叶えたいなと思いました。隣の席の方と同じ「強み」で、人のコミュニケーション傾聴の場を作りたいというのが同じでした。
- ・私達の頃は、子育てがやや終わり時より、まずアルバイト、パートから始めました。その時代に「ママドラフト会議」があったら多少違っていたかもしれません。娘に知らせたいと思います。
- ・○十年前に戻れたら、少し違う人生が歩めたかもしれません。
- ・女性の働き方や、企業や現在の法律がどのように変わってきたかわかりました。女性がもっと働きやすい社会になればいいと思いました。
- ・仕事をやめて生活している中で、若い女性が働く事に希望を持てる社会体制を作っていくことが重要であると思いました。若い人が自分磨きをすることができるよう！
- ・現在7歳と5歳の子育て中です。子育て経験がもたらすスキル、まさにその通りだと思いました。子育てによって身に付いているスキルを自分の強みに変えて、今後の人生に生かしていきたいと思いました。
- ・仕事から離れた期間はブランクなどではなくて、子育て期に伸びるスキルがあるということがとても印象に残りました。ちょうど、娘が育休期ですので伝えたいと思いました。「福岡じょしごと」のことぜひ娘（30代）に伝えます。
- ・これから先の方たちのためには素晴らしいことをされていると思いました。